

AYA 支援に関する医療従事者教育の研究

研究分担者 吉田沙蘭 東北大学大学院教育学研究科 准教授

研究要旨

医療従事者を対象とした AYA 支援の体制づくりのための研修プログラムを開発することを目的とし、AYA 支援チームの立ち上げを予定している施設を対象に、パイロット研修プログラムを実施した。その結果、研修プログラムを通して、支援体制のための漠然とした課題が、実現可能な行動目標に変化することが明らかとなった。本研究の成果をもとに、AYA 支援チームの体制づくりを支援するための政策提言につなげる予定である。

A. 研究目的

AYA 支援体制の整備が求められているが、新しい取り組みであるがゆえに、現状十分な支援体制が構築されている施設は少ない。また、新規で支援体制の構築を検討している施設にとっても、どのように取り組むのが効果的か不明であるため、困難な課題となっている。そこで、本研究では、医療従事者を対象とした AYA 支援の体制づくりのための研修プログラムを開発することを目的とする。

B. 研究方法

AYA 支援体制の構築を検討している施設を対象に、研修プログラムを実施し、その効果および今後の課題を明らかにした。

令和元年 8 月に、18 施設を対象とした研修を実施した。研修前に、各施設における AYA 支援体制構築のための課題および、短期的・長期的な目標について記入する課題を課した。研修では、AYA 支援のために必要な、妊孕性温存、ピアサポート、長期フォローアップの 3 課題に関する講義を行うとともに、班員が所属

するモデル施設から、立ち上げ前後における課題やそれに対する取り組みを先行事例として紹介した。その後、支援体制構築のための課題や解決策について他施設の医療者とディスカッションを行うグループワークを行なった。研修後、講義およびグループワークの内容を受け、各施設での短期的・長期的な目標を、同施設からの参加者同士でのディスカッションを通して見直した。その後、実際に施設内で必要な取り組みを実行に移すことを課題とした。課題の成果については、今後フォローアップ調査を実施予定である。

C. 研究結果

AYA 支援体制構築に際しては、①体制づくり(13/18 施設)、②患者のニーズの明確化(8/18)、③院内の診療科連携(8/18)、④院内の AYA 世代がん患者の捕捉(7/18)、などが、多くの施設に共通する課題としてあげられた。また、長期的な課題としては、地域連携、院内広報、人材の育成などがあげられた。講義および多施設でのグループワークでのデ

イスカッションの内容をふまえ、研修の後半で行った施設内での課題の見直し作業においては、漠然とした課題が、実現可能な行動目標に変化していた。例えば、体制づくりとしては、窓口の明確化、院内の各部門の取り組みの把握、フローチャートの作成、がんセンターボードへの働きかけ、相談室や医事課との連携、などが行動目標としてあげられた。また、他施設の課題や取り組みについて情報交換することにより、研修前と比較して、新たな目標や、より発展的な目標が設定される施設も複数見られた。

D. 考察

H30 年度に行ったモデル施設を対象としたパイロット研修と同様に、一般施設を対象とした研修でも、研修プログラムを実施することにより、支援体制の構築に向けて、自施設の課題や必要な取り組みが具体化することが明らかとなった。また、先行するモデル施設の取り組みや、同じく支援チームの立ち上げを予定している他施設の準備に関する取り組みを知ることにより、新しい目標が設定されることが明らかとなった。

E. 結論

本年度の成果から、モデル施設における実際の施設の取り組みについての情報が、特に立ち上げ期にある施設にとっては有用であることが明らかとなった。今後、こうした情報を、研修あるいはその他のかたちで情報提供することが必要であると考えられた。研修の長期的な効果については、今後のフォローアップ調査

で検証していくとが必要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし